

6.4. そのほかの研究活動

6.4.1. 概要

もちろん、大学の研究応援プログラムを利用するだけが研究活動の手段ではありません。大学生は社会人や研究者と一続きになっているため、コネや機会があれば他にも様々な方法で研究に携わることができます。ここではつくばの国立科学博物館で研究活動を行っている学類3年生、荒木さんの事例を紹介します。

ほんとにいつもお世話になっております。今度ご飯おごります。

6.4.2. 学類3年生の事例紹介

研究学園であるつくばには、筑波大学の他にも**たくさんの研究施設**が存在します。本記事では、そんな学外の研究施設における研究への参加に関して簡単に紹介します。私の事例は少々特殊かもしれませんが、刺激的な体験を求める方の参考になれば幸いです。

私は大学1年の春ごろから国立科学博物館筑波実験植物園のとある研究室に通っています。初めは企画展準備の助っ人として**サークルの先輩から紹介**され^{*7}、ボランティアとして展示計画や植物採集に行っていました。途中からはバイトとしての契約になり、現在も継続的に研究に関わる業務や展示のメンテナンスをしています。

また、自身でも個人的に採集した植物の中で学術的に価値が高いものを研究室に持ち込むようになりました。これらはDNAの解析に欠けられ、さく葉標本になり収蔵されるのですが、一部は栽培維持されたりもします。私が持ち込んだ中にも非常に珍しい物があり研究室の先生がその生息環境に関する研究計画を立ち上げられたので、私も現在そこに参加する形で調査等を行っています^{*8}。

このように、大学外の研究施設であっても、興味のある分野であれば個人的にコネクションを作って研究に参加することが可能です。つくばではアンテナを張っていれば、**研究施設のバイトやインターン**などの情報も入ってきます。こうした施設での研究は大学と異なる部分も多いため、良い経験になるはずです。

6.5. おわりに

いかがだったでしょうか？現在の生物学類のHPでも研究マインド応援プログラムに関して動画で紹介している^{*9}のでそれも参考にしてください。

<https://cbs.biol.tsukuba.ac.jp/briefing/>

早い段階でこのように**制度として研究を応援する風潮**が存在するのは他大学にはない筑波大学の長所です。研究に意欲のある新入生がこのような制度を利用して研究活動に取り組み、素晴らしい成果をあげることを期待しています。

《文責：吉本 賢一郎》

⁷ 余談ですが、我々がサークル、野生動物研究会には生物系のコネを持っている人がOBも含めて結構います

⁸ 私は高校時代まで魚の研究を行っていたものの、植物に関しては遊び程度にしか扱ったことがありませんでした。それでも興興味さえあればなんとかできるので、ぜひ一歩踏み出してみることをおすすめします

⁹ 研究の趣旨に関しては大学説明会用ではかなり大雑把な説明にしております